
 ニュース

日本の火山活動概況（2015年4月～6月）

気象庁

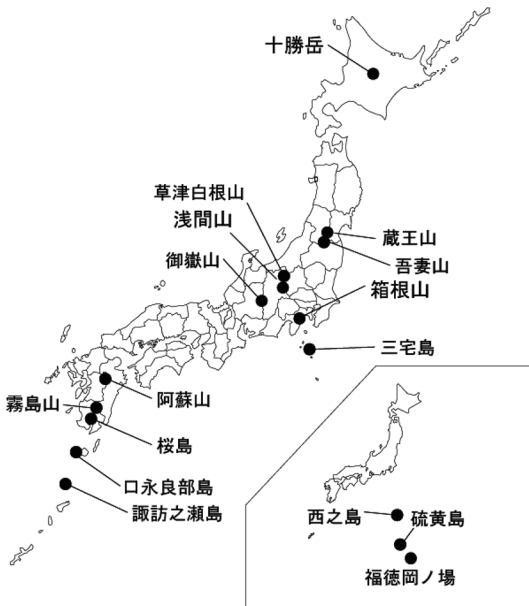


図 1. 2015年4月～6月に目立った活動があった火山

十勝岳 (43° 25′ 04″N, 142° 41′ 11″E)

GNSSによる観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められており、5月頃から北海道立総合研究機構地質研究所が観測している62-2火口付近の観測点で変化率が大きくなっているが、繰り返し観測では火口に近い他の観測点の変化率が変わらないことから、山体浅部の膨張による変化に加えて、観測点周辺の局所的な変動の影響が含まれている可能性が考えられる。なお、マグマの動きによると考えられる深部の地殻変動は認められなかった。

また、2014年12月上旬から低下傾向が認められていた62-2火口及び大正火口の近傍に設置してある地震計の常時微動の振幅レベルは、5月30日に急に減少し2014年11月以前のレベルに戻ったが、その後徐々に増大している。

蔵王山 (38° 08′ 37″N, 140° 26′ 24″E)

4月7日以降、御釜付近が震源と推定される火山性地震が増加し、4月の地震回数が319回となり、2010年9

月の観測開始以降最多の月別の地震回数となった。5月下旬から6月中旬までは地震の少ない状態で経過した。5月17日に継続時間の短い規模の小さな火山性微動を観測した。

5月11日、29日に実施した現地観測及び4月18日、5月26日に宮城県の協力により実施した上空からの観測では、御釜周辺と丸山沢噴気地熱地帯をはじめ想定火口域(馬の背カルデラ)内に特段の変化は確認されなかった。

吾妻山 (37° 44′ 07″N, 140° 14′ 40″E)

5月6日に火山性微動が発生し、傾斜計では微動発生に伴い西側(火口方向側)上りの変動が観測された。

今期間の火山性地震の月別の地震回数は4月は30回、5月は247回、6月は255回と増減を繰り返しながらやや多い状態で経過した。

噴気活動はやや活発な状態が続いており、1月以降確認している大穴火口外の噴気が引き続きみられている。

GNSS連続観測では、2014年9月頃から一切経山南山腹観測点(大穴火口の北約500m)が関係する基線で一切経山付近の膨張を示す穏やかな変化がみられていたが、6月頃から停滞している。

草津白根山 (36° 38′ 38″N, 138° 31′ 40″E)

2014年3月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加し、2014年8月20日以降はやや少ない状態で経過していたが、2015年1月以降一時的な火山性地震の増加もみられている。6月28日には継続時間が2分15秒の振幅の小さな火山性微動が発生した。火山性微動が発生したのは2013年1月1日以来である。地殻変動観測によると、湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、4月頃より鈍化している。また、湯釜周辺に設置している東京工業大学の傾斜計によると、2014年3月からみられている湯釜付近浅部での膨張を示す変動は継続している。

東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化が見られている。また、全磁力観測による2014年5月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、同年7月以降停滞している。

5月12日に実施した赤外熱映像装置による観測では、引き続き湯釜火口壁北側、北側噴気地帯に地熱域が認められ、前回(2014年11月4日)までの観測と比較して、

高温領域の成分がやや拡大していることを確認した。

浅間山 (36° 24' 23" N, 138° 31' 23" E)

6月16日及び19日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生した。浅間山で噴火が発生したのは、2009年5月27日以来である。

6月16日に関東地方整備局の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口からの白色噴煙と青白色の火山ガス(二酸化硫黄)の噴出を観測した。また火口付近北側の降灰の状況を確認した。6月24日に群馬県防災航空隊の協力により実施した上空からの観測では、山頂火口から引き続き白色噴煙と青白色の火山ガスの噴出がみられた。また、5月23日の観測と比べて、山頂火口から活発に噴煙が上がっており、噴煙の量は多くなっていた。火口底の温度も全体的に上昇し、高温領域の分布の拡がりを確認した。

二酸化硫黄の放出量は6月11日の観測で1日あたり1,700トンと急増し、6月25日の観測では5,600トンとさらに増加した。この値は2002年7月4日の観測開始以降の最高値であり、二酸化硫黄放出量が1日あたり5,000トンを超えたのは2009年1月15日(5,100トン)以来である。

噴火時を除き、火口からの噴煙は白色で、5月までは、火口縁上概ね400m以下で推移していたが、6月には最高で1,200mまで上がった。噴煙の高さが1,000mを超えたのは、2009年2月10日(1,400m)以来である。噴煙量も6月に入ってから増加傾向がみられる。

山頂火口直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震及び火山性微動は、2014年頃から長期的に増加傾向がみられる。そのうち火山性地震は4月下旬からさらに増加している、火山性地震の日回数の最多は6月20日の206回であり、日回数が200回を超えたのは2009年4月13日(204回)以来である。発生した地震の多くはBL型地震(低周波地震)で、震源の浅部への移動等の変化はみられていない。6月の火山性微動の月回数は47回と増加し、2009年4月(87回)以来の発生回数となっている。また、6月16日08時12分から19時28分及び6月19日16時26分から22時28分にかけて、連続的に火山性微動が観測された。

GNSS連続観測では、2009年秋頃から縮みの傾向がみられていたが、一部の基線で5月頃からわずかな伸びがみられる。傾斜計のデータに、6月16日に火山活動に関連するとみられるわずかな変動が観測されたが、この変動はその後停滞している。また、6月上旬頃から、山頂西側のやや深いところを膨張源とする緩やかな傾斜変化がみられている。光波測距による地殻変動では、6月頃

から山頂と追分の間で縮みの傾向がみられており、山頂のごく浅いところの膨張による可能性がある。

御嶽山 (35° 53' 34" N, 137° 28' 49" E)

火山活動は低下した状態が継続しており、2014年10月中旬以降、噴火は観測されていない。火山性微動は2014年12月以降観測されておらず、地殻変動観測では火山活動の高まりを示す変化は観測されていない。

一方、弱いながらも噴煙活動や地震活動は続いている。三岳黒沢及び鈴蘭高原に設置している遠望カメラ、中部地方整備局が滝越等に設置しているカメラによる観測では、白色の噴煙が火口縁上100~900mの高さで経過した。また、上空の風が弱いときには一時的に最高で1,200mの高さまで上がった。火山性地震は少ない状態で経過したが、2014年8月以前の状態には戻っていない。

箱根山 (35° 14' 00" N, 139° 01' 15" E)

4月26日から大涌谷付近を震源とする火山性地震が増加し、5月には、箱根町湯本で震度1以上を観測する地震が19回発生した。地震回数は6月に入り減少していたが、6月29日07時32分に継続時間約5分間の火山性微動を観測した。火山性微動を観測したのは、2010年11月の観測開始以来初めてである。火山性微動の発生後地震回数は増加し、6月30日には日回数が603回となり、日回数としては2001年以降最多となった。また、箱根町湯本などで震度1以上を観測する地震が6月29日から30日にかけて15回発生し、このうち震度3を観測する地震が2回発生した。

5月3日に神奈川県温泉地学研究所で通常より蒸気の噴出量が多くなっているとの通報があり、その後5月に実施した現地調査及び神奈川県警察本部地域部地域総務課航空隊の協力により実施した上空からの観測では、大涌谷温泉施設で蒸気が引き続き勢いよく噴出しているのを確認した。6月29日に気象庁機動観測班(JMA-MOT)が実施した現地調査では、12時45分頃降下物を確認するとともに、大涌谷周辺で新たな噴気孔を確認した。また、翌30日に関東地方整備局の協力により実施した上空からの観測で、前日確認した噴気孔から噴煙が勢いよく噴出しているのを確認し、同日に神奈川県温泉地学研究所及び気象庁が実施した現地調査で、前日確認した噴気孔周辺で火山灰等の堆積による盛り上がり及びロープウェイ大涌谷駅付近で降灰を確認した。これらことから、大涌谷で6月29日夜から30日朝にかけてごく小規模な噴火が発生したとみられる。6月29日16時以降、断続的に空振を観測した。

気象庁と神奈川県温泉地学研究所が設置している傾斜

計による地殻変動観測及び湯河原鍛冶屋の体積ひずみ計では、火山活動に関連するとみられる変動が観測されており、国土地理院のGNSS連続観測によると、箱根山周辺の基線で、4月から山体の膨張を示す地殻変動がみられている。6月以降一部の基線の伸びの速度がやや低下してものの、引き続き山体膨張を示す変化がみられている。

三宅島 (34° 05′ 37″ N, 139° 31′ 34″ E)

三宅島では、噴火は2013年1月22日以降発生していない。

火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013年9月以降は1日あたり500トン以下で経過している。また、山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過している。

GNSSによる観測では、2000年以降、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなり、2013年頃から停滞している。一方、島内の長距離の基線で2006年頃から伸びの傾向がみられるなど、山体深部の膨張を示す地殻変動が継続している。

今期間実施した現地調査では、主火孔内部に硫黄の昇華物が付着しているのを確認した。山頂火口南側内壁に位置する主火孔及びその周辺で引き続き高温領域が認められ、火口内の地形及び高温領域の分布に特段の変化は認められなかった。

西之島 (27° 14′ 49″ N, 140° 52′ 28″ E)

海上保安庁、海上自衛隊等の観測によると、噴火及び溶岩の流出が継続し、新たに形成された陸地の拡大が確認された。

6月18日に海上保安庁が実施した上空からの観測によると、新たな陸地の大きさは、東西方向に約1,980m、南北方向は約2,090m、面積は約2.70km²になっているのが確認された。

硫黄島 (24° 45′ 02″ N, 141° 17′ 21″ E (摺鉢山))

ミリオンダラーホールでは、2012年2月上旬から水蒸気爆発が度々発生しているが、今期間、噴火の発生はなかった。

阿蘇台東遠望カメラ(阿蘇台陥没孔の東北東約900m)による観測では、島北西部の井戸ヶ浜で5月22日及び24日に最大100mの水蒸気の噴出を確認した。また、6月20日にも最大200mの水蒸気の噴出を確認した。

火山性地震は、やや少ない状態で経過した。火山性微動が時々発生したが、火山性微動が観測された時間帯に、その他の観測データに特段の変化は認められなかった。

地殻変動は2014年2月下旬頃から隆起・停滞を繰り返し3月頃から隆起速度が上がっていたが、5月下旬頃から停滞している。また、2015年4月中旬頃から西向きの変動速度が上がっている。

福德岡ノ場 (24° 17′ 05″ N, 141° 28′ 52″ E)

4月14日及び5月26日に海上保安庁が実施した上空からの観測では、福德岡ノ場付近では変色水等は認められなかった。

福德岡ノ場ではしばしば火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010年2月3日には小規模な海底噴火が発生している。

阿蘇山 (32° 53′ 01″ N, 131° 05′ 49″ E (中岳))

中岳第一火口では、4月及び5月21日まで断続的に噴火が発生し、4月23、24及び26日には灰白色の噴煙が火口縁上1,500mまで上がった。4月21日及び24日の夜間に実施した現地調査では、ストロンボリ式噴火を観測し、赤熱した噴石が断続的に火口縁上200mの高さまで上がるのを確認した。5月22日以降噴火は観測されなかった。

火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら、概ね大きな状態で継続した。5月3日22時04分には継続時間約5分間の振幅の大きな火山性微動が発生し、南阿蘇村中松で震度1を観測した。火山性微動により震度1以上を観測したのは、1995年7月4日(震度1)以来である。翌4日に実施した現地調査では、火口から北東約4kmの阿蘇市一の宮町宮地で、5月3日の火山性微動に伴って噴出したと推定される降灰の痕跡を確認した。5月5日に実施した現地調査では、141火口の南側が陥没していることを確認した。これは5月3日の火山性微動に伴う噴出現象に関連している可能性がある。

また、6月10日に実施した現地調査では、141火口内の一部に湯だまりを確認した。湯だまりを確認したのは2014年7月8日以来である。赤外熱映像装置による観測では、湯だまりの最高温度は約80度であった。その後の調査でも引き続き湯だまりを確認していたが、6月29日には消滅しているのを確認した。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり900~1,700トンと概ね多い状態で経過した。

中岳第一火口周辺で観測された4月2~30日の降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所で1,868g/m²、阿蘇市役所で26g/m²、5月1日~6月1日の降灰量は、阿蘇山特別地域気象観測所で586g/m²、阿蘇市役所で0g/m²であった。

GNSSによる観測では、深部にマグマだまりがあると

考えられている草千里を挟む基線の伸びは3月頃から停滞している。

霧島山（新燃岳）（31° 54′ 34″N, 130° 53′ 11″E）

新燃岳では、今期間噴火の発生はなかった。

3月下旬以降、新燃岳直下を震源とする火山性地震がやや増加し、月回数は4月が92回、5月が48回であったが、6月は24回と少ない状態で経過した。震源は、新燃岳付近のごく浅いところから海拔下1km付近に分布した。

GNSSによる観測では、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013年12月頃から伸びの傾向がみられていたが、1月頃から停滞している。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）（31° 56′ 49″N, 130° 51′ 14″E（硫黄山））

えびの高原（硫黄山）周辺では、2013年12月頃から火山性地震の多い状態が続いていたが、4月頃から少ない状態となっている。火山性微動は2014年8月20日に発生して以降、観測されていない。

GNSSによる観測では、えびの高原（硫黄山）周辺の一部の基線で、2013年12月頃からみられた伸びの傾向は、1月頃から停滞している。

4月12～14日に実施した現地調査では、硫黄山及びその周辺では噴気は認められず、赤外熱映像装置による観測でも、熱異常は認められなかった。

4月12～13日に実施した全磁力繰り返し観測では、火山活動によると考えられる特段の変化は認められなかった。

桜島（31° 34′ 38″N, 130° 39′ 32″E（南岳））

昭和火口では、活発な噴火活動が継続した。噴火の回数は4月が240回（そのうち爆発的噴火は112回）、5月が244回（そのうち爆発的噴火は169回）、6月が103回（そのうち爆発的噴火は64回）であった。爆発的噴火のうち6回（4月1回、5月5回）では、大きな噴石が3合目まで飛散した。この内、5月13日21時04分の爆発的噴火に伴って落下したと推定される最大約2cmの小さな噴石（火山れき）を桜島島内の鹿児島市黒神町付近（昭和火口から東側約4km）で確認した。また、4月18日05時17分と4月28日09時40分の爆発的噴火では、ごく小規模な火砕流が発生し、昭和火口の東及び南東側へ約500m流下した。噴煙の高さの最高は、5月21日10時20分に発生した爆発的噴火による火口縁上4,300mであった。

火山性地震の月回数は、4月及び5月は少ない状態で経過したが、6月はやや多い状態で経過した。噴火に伴い火山性微動が発生し、中には空振を伴った振幅の大きなものも発生した。

今期間実施した現地調査では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり400～5,400トンだった。

桜島島内の伸縮計では、2015年1月1日頃から山体の膨張を示す変化が継続している。桜島島内の傾斜計では、1月以降、山体がわずかに隆起する傾向が続いていたが、3月以降停滞する傾向が見られる。GNSS連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013年6月頃から停滞していたが、1月から伸びの傾向がみられる。桜島島内では、1月上旬頃から伸びの傾向がみられる。

鹿児島地方気象台における月（合計）降水量は、4月が107g/m²、5月が309g/m²、6月が18g/m²であった。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、4月が約120万トン、5月が約100万トン、6月が約30万トンであった。4月の総噴出量（約120万トン）は、昭和火口が活動を再開してから最も多い量となった。

口永良部島（30° 26′ 36″N, 130° 13′ 02″E）

5月23日08時00分に島内のごく浅いところを震源とする地震（M2.3: 暫定）が発生し、島内で震度3を観測した。島内を震源とする地震で震度1以上を観測したのは、2015年1月24日の震度1以来であった。

5月29日09時59分に爆発的噴火が発生し、黒灰色の噴煙が火口縁上9,000m以上に上がった。この噴火に伴い火砕流が発生し、新岳の北西側（向江浜地区）では海岸にまで達した。この噴火は前回（2014年8月3日）の噴火を超える規模と考えられる。

この噴火に伴い、火山性微動や空振と山頂側がわずかに沈降する傾斜変化が観測された。火山性微動の継続時間は約14分で、新岳火口から北東約2.3kmに設置している新岳北東山麓観測点で最大振幅716μm/s（南北動）を観測した。また、同観測点の空振計では最大で62.2Pa以上（振り切れ）の空振を観測した。本村東観測点（新岳から北西2.8km）の空振計では13.9Paの空振を観測した。

この噴火に伴う火山灰を産業技術総合研究所が分析した結果、火山灰には新しいマグマと考えられる溶岩片が含まれていたことから、今回の噴火はマグマ水蒸気噴火であったと考えられる。

5月29日から6月1日に九州地方整備局と鹿児島県の協力を得て、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施し

た現地調査では、火砕流は新岳火口からほぼ全方位に流れており、新岳北西側への流下が顕著であることを確認した。また、新岳南西側及び南東側でも中腹まで流下しているのを確認した。赤外熱映像装置では、火口周辺や新岳の北西から南西の谷筋にそって、火砕流の堆積物と考えられる熱異常域を確認した。

6月1日と6日に気象庁機動調査班(JMA-MOT)が九州地方整備局の協力を得て実施した上空からの観測では、新岳北西側斜面で樹木の変色域を確認した。噴火前の3月25日の観測と比較して、火口内北側と火口内南西側の一部が消失しており、新岳火口底が深くなっていた。赤外熱映像装置では、火砕流の堆積物に対応すると考えられる熱異常域は、新岳西側斜面に広く分布していた。また、新岳西側割れ目付近でも熱異常域を確認した。

5月29日の爆発的噴火後に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び屋久島町が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり3,800トンと非常に多い状態だった。6月6、20、21、29日に東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり800~1,700トンと依然として多い状態だった。

また、6月18日12時17分にも噴火が発生した。第十管区海上保安本部によると、口永良部島の東海上(新岳火口から約9km)の巡視船で、6月18日に発生した噴火に伴う0.5~2.5cm程度の小さな噴石が3分間にわたり連続的に降り注ぎ、周辺海域で降灰を確認したことが報告された。同日実施した現地調査及び聞き取り調査では、屋久島町、西之表市及び中種子町で降灰を確認した。この噴火に伴い振幅の大きな地震が発生し、その後、火山性微動が12時47分頃まで継続した。新岳北東山麓観測点(新岳火口から北東約2.3km)では、19.4Paの空振を観測した。新岳北東山麓観測点に設置している傾斜計では、火口方向が下がる傾斜変動が観測された。

この後6月18日16時31分と同月19日09時43分にもごく小規模な噴火が発生し、いずれも噴煙が火口縁上200mまで上がった。

諏訪之瀬島 (29° 38' 18" N, 129° 42' 50" E (御岳))

御岳火口では、爆発的噴火が4月に2回発生したほか、噴火も時々発生し、噴火に伴う灰白色の噴煙が最高で火口縁上1,700mまで上がった。期間を通して夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、4月11日に集落(御岳の南南西約4km)で降灰が観測された。

(お知らせ) 最新の火山活動解説資料は気象庁ホーム

ページの以下のアドレスに掲載しています。

URL http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.htm
(文責：気象庁地震火山部火山課 輪島久仁子)

○公募等

締切等が過ぎているものも記録のため掲載してあります。

最新の情報につきましては、メーリングリスト等にて随時ご案内しております。

○人事公募

【岡山大学地球物質科学研究センター】

1. 公募人員：准教授または助教1名
2. 所属：地球物質科学研究センター分析地球化学部門
3. 教育担当：准教授で採用された場合、5年一貫制博士課程 地球惑星物質科学専攻の授業科目を担当予定
4. 研究分野：岡山大学地球物質科学研究センターは、地球・惑星の起源、進化、及びダイナミクスに関する研究と教育を実施する「地球・惑星物質科学研究拠点」として文部科学省より認定を受けた共同利用・共同研究拠点です。本研究センターでは、多様な分析装置を有機的に連携させ運用される地球惑星物質総合解析システムならびに、高压高温発生装置を中核とする地球惑星物質物性実験システムを継続的に発展させることによって、世界の分析地球化学、実験地球物理学分野を先導し続けています。国内外の研究者・学生に対し、これらの実験研究設備利用の機会とそれに伴う技術と知識を提供し、地球惑星物質の分析化学、年代学、物質構造解析学、及び様々な物理化学的条件に対応する再現実験等の手法を駆使して、実証的物質科学研究を推進しています。また、5年一貫制博士課程を特徴とする国際的教育環境における人材育成にも取り組んでいます。さらに、本センターは来年度、地球惑星物質科学分野の拡張と新研究領域分野の創設を目的として、新たな研究体制への改組を計画しています。

本公募では、上述の共同利用・共同研究拠点及び新たな研究体制に関わる研究教育における使命を理解し、当センターの将来を積極的にリードできる意欲あふれる方の応募を期待します。特に本研究センターに整備された研究資産を活用し、地球および地球外物質の状態を時間軸のもとに記述することによって、ナノメートルから太陽系スケールにおける太陽系物質の起源・進化・ダイナミクスの解明を目指す研究を精力的に推進できる方を求めます。また、

将来予定されている小惑星リターン試料の解析にも積極的に従事することが期待されます。地球惑星物質科学分野の方はもちろん、それ以外の関連分野の方の応募も歓迎します。

なお、本研究センター所属の研究者やその研究分野、実験・分析設備等の詳細については、本研究センターのホームページ (<http://www.misasa.okayama-u.ac.jp/>) を参照してください。

5. 応募資格: 博士の学位を有する方、国籍は問いません。

6. 提出書類:

- ・履歴書
- ・研究業績 (原著論文 (査読の有無を区別)、総説、著書およびその他に分けてください。)
- ・主要論文 5 編の別刷または PDF ファイル
- ・これまでの研究の概要
- ・研究・教育について着任後の計画・抱負
- ・応募者について所見を求めうる方 2 名の氏名および連絡先

7. 応募締切: 平成 27 年 8 月 31 日 (必着)

8. 着任時期: 採用決定後できるだけ早い時期

9. 問い合わせ先および書類送付先:

〒682-0193 鳥取県東伯郡三朝町山田 827

岡山大学地球物質科学研究センター長 中村栄三

電話 0858-43-3745

eizonak@misasa.okayama-u.ac.jp

電子メールにて応募する場合は、メール件名に「教員公募応募」と記入してください。郵送の場合は、「教員公募書類在中」と朱書きの上、書留で送付してください。

11. 選考方法: 岡山大学地球物質科学研究センター教授会で審査します。

付記: 岡山大学では、男女共同参画を推進し、女性教員をサポートしています。

女性の積極的な応募を歓迎します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 18 日送信しました)

【新潟大学理学部地質科学科】

○所属: 新潟大学教育研究院自然科学系 環境科学系列

○担当学部・研究科: 理学部地質科学科、大学院自然科学研究科環境科学専攻地球科学コース

○担当予定科目:

【学 部】 野外調査を基本とする実習科目、岩石学・鉱物学・構造地質学・堆積学・古生物学に関する何れかの専門科目、地学に関する基礎科目

【大学院】 フィールド地質学に関わる地質科学分野の

専門科目 など

○職種・人員: 准教授 1 名

○応募締切: 平成 27 年 9 月 30 日 (水) 必着

○採用予定日: 平成 28 年 4 月 1 日以降のなるべく早い時期

○詳しくは <http://www.gs.niigata-u.ac.jp/~scitech/gakugai/koubo/koubo208.pdf>, または JREC-IN の採用情報 (データ番号: D115071294) をご覧ください。

○問合せ先: 新潟大学理学部地質科学科 教授 高澤栄一
電話 025-262-6114 (直通)

E-mail: takazawa@geo.sc.niigata-u.ac.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 3 日送信しました)

【東北大学大学院 理学研究科 地学専攻 (深部科学・深部科学・超高压物質科学)】

募集人員: 教授 1 名

所属講座: 東北大学大学院 理学研究科 地学専攻 地球惑星物質科学講座

募集分野:

地学専攻、理学部地球惑星物質科学科における地球惑星深部科学・超高压物質科学およびその関連分野の研究・教育とそれに付随する大学運営を中心となって推進し、地学専攻や学内外の研究者と協力しながら、国際的な場で積極的に活動し、国際共同大学院をはじめとする、大学改革に伴う研究・教育プログラムの推進にご尽力頂ける方。

大型外部資金獲得に実績があり積極的な方。

先端的な研究分野において博士課程大学院生を指導し、若手研究者を世界に送りだすことに注力頂ける方が望ましい。

担当科目: 理学研究科・理学部と全学教育における地球惑星科学関係の講義・演習・室内実習・野外実習等

応募資格: 博士の学位を有する者

着任予定: 平成 28 年 1 月 1 日以降のできるだけ早い時期

提出書類:

1. 履歴書 (写真貼付、連絡先明記のこと)
2. 研究業績リスト (1) 論文 (査読の有無を記すこと) (2) 著書 (3) その他
3. 主要論文 10 編の別刷り各 1 部 (コピー可)
4. 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得実績リスト
5. これまでの教育・学生指導・研究実績の概要 (A4 用紙 1 頁程度)

6. 着任後の研究・教育に関する抱負（A4用紙2頁程度）
関連学問分野の将来展望と具体的な計画について、
適宜図表等を用いて記載してください。

7. 照会可能な方2名の氏名と連絡先

応募締切日：平成27年9月30日（水）必着

書類送付先：

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室 宛

応募書類送付に際しては、封筒表面に「深部科学教授
応募書類在中」と朱書し、簡易書留郵便にすること。

応募書類は原則返却致しません。

また、審査において面接を行う場合、交通費は応募
者の負担とします。

照会先：東北大学理学部地球惑星物質科学科 学科長

中村美千彦

電話：022-795-7762, FAX：022-795-6675

e-mail：nakamm@m.tohoku.ac.jp

その他：

当該講座を含む地学専攻、地球惑星物質科学科の構
成員と研究内容は、下記のURLをご参照下さい。

URL：http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html

なお、東北大学では、大学内での女性研究者比率向
上に努めています

(URL：http://www.morihime.tohoku.ac.jp/ をご覧下
さい)。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月4
日送信しました)

【東北大学大学院 理学研究科 地学専攻（鉱物結晶学・単
結晶 X 線回折法）】

募集人員：准教授 1名

所属講座：東北大学大学院 理学研究科 地学専攻 地球惑
星物質科学講座

募集分野：

地学専攻、理学部地球惑星物質科学科における鉱物結
晶学・単結晶 X 線回折法およびその関連分野の研究・
教育を中心となって推進し、地学専攻や学内外の研究
者と協力しながら、国際的な場で積極的に活動し、国
際共同大学院をはじめとする、大学改革に伴う研究・
教育プログラムの推進にご尽力頂ける方。

大型外部資金獲得に積極的な方。

先端的な研究分野において博士課程大学院生を指導
し、若手研究者を世界に送りだすことに注力頂ける方
が望ましい。

担当科目：理学研究科・理学部と全学教育における地球
惑星科学関係の講義・演習・室内実習・野外実習等

応募資格：博士の学位を有する者

着任予定：平成28年4月1日以降のできるだけ早い時期
提出書類：

1. 履歴書（写真貼付、連絡先明記のこと）

2. 研究業績リスト（1）論文（査読の有無を記すこと）
（2）著書（3）その他

3. 主要論文10編の別刷り各1部（コピー可）

4. 在外研究歴・研究教育に関する受賞歴・外部資金獲得
実績リスト

5. これまでの教育・学生指導・研究実績の概要（A4用
紙1頁程度）

6. 着任後の研究・教育に関する抱負（A4用紙2頁程度）
関連学問分野の将来展望と具体的な計画について、
適宜図表等を用いて記載してください。

7. 照会可能な方2名の氏名と連絡先

応募締切日：平成27年9月30日（水）必着

書類送付先：

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3

東北大学大学院理学研究科地学専攻事務室 宛

応募書類送付に際しては、封筒表面に「准教授応募
書類在中」と朱書し、簡易書留郵便にすること。応募
書類は原則返却致しません。また、審査において面接

を行う場合、交通費は応募者の負担とします。

照会先：東北大学理学部地球惑星物質科学科 学科長

中村美千彦

電話：022-795-7762, FAX：022-795-6675

e-mail：nakamm@m.tohoku.ac.jp

その他：

当該講座を含む地学専攻、地球惑星物質科学科の構
成員と研究内容は、下記のURLをご参照下さい。

URL：http://www.es.tohoku.ac.jp/JP/index.html

なお、東北大学では、大学内での女性研究者比率向
上に努めています

(URL：http://www.morihime.tohoku.ac.jp/ をご覧下
さい)。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月4
日送信しました)

【神奈川県温泉地学研究所】

職種：地質職（火山学またはそれに関連する地球科学の
分野）

職務内容：火山学またはそれに関連する地球科学の分野

ア 火山活動に関する各種現象の調査・観測

イ 火山活動に関する各種観測データの解析と火山現
象のメカニズム解明等の研究

ウ その他緊急時における措置対応

採用予定数：1名

※採用年月日：原則として平成28年4月1日

勤務予定地：神奈川県温泉地学研究所（神奈川県小田原市入生田586）

申込期間：平成27年8月5日（水）から8月31日（月）（必着）

その他詳細は下記のリンクより募集要項等をご覧ください。

募集要項及び様式のダウンロードはこちらから
神奈川県職員（地質職）採用選考のお知らせ（安全防災局総務室のページ）

<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f420305/>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月6日送信しました）

【首都大学東京 都市環境学部地理環境コース（自然地理学）】

（締切：平成27年9月30日）

募集人員：助教 1名

所属・勤務地：（学部）都市環境学部地理環境コース（大学院）都市環境科学研究科都市環境科学専攻地理環境科学域・首都大学東京南大沢キャンパス（〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1）

採用予定日：2016年4月1日

任期：任期5年（更新1回。更新後の任期は5年）

*任期更新後、採用から10年目の審査を経て任期の定めのない雇用となります。

詳しくは大学ホームページ（http://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_teacher/tmu.html）を御参照ください。

専門分野：自然地理学（地形学、第四紀地質学、環境地理学など）

担当予定科目：地理環境科学基礎演習、地理環境科学実習、地理環境科学調査法（野外実習）、地理環境科学研究法、地理環境科学第一・第二専門セミナー、地理環境科学特別研究（卒論指導）などを分担して担当

応募資格：博士の学位を有する方、又はそれと同等の学識と業績を有する方で、地理環境の研究と教育に責任と熱意を持って取り組んでいただける方

応募締切り：2015年9月30日（水）（必着）

問い合わせ：

◎公募全般に関すること

公立大学法人首都大学東京 総務部人事課人事制度係
TEL：042-677-1111（内）1028

E-Mail：kyoinsaiyo@jmj.tmu.ac.jp

◎専門分野に関すること

首都大学東京 都市環境科学研究科 地理環境科学域 教授 鈴木毅彦

TEL：042-677-1111（内）3845

E-Mail：suzukit@tmu.ac.jp

[詳細]：

http://www.houjin-tmu.ac.jp/recruit_teacher/tmu.html

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月6日送信しました）

【北海道立総合研究機構 地質研究所】

1. 職種・人員 研究職員 1名
2. 職務内容 地すべり・斜面崩壊等の地質災害の防止及び被害軽減に関する調査研究
3. 受験資格 昭和56年4月2日以降に生まれた者で、修士課程修了者と同等の能力を有すると認められる者
4. 受付期限 平成27年9月11日（金）消印有効
5. 第一次試験日：平成27年10月11日（日）札幌市にて実施
6. 採用時期 平成28年4月1日

詳細につきましては、下記をご覧ください。

http://www.hro.or.jp/hro/recruit/recruit/kennyuuyoukou_tuika.pdf

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月7日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：助教1名
2. 所属：高エネルギー素粒子地球物理学研究センター
3. 研究分野：高エネルギー素粒子地球物理学分野

地震研究所では、これまで革新的観測技術として地表設置型の宇宙線観測装置を開発し、宇宙線ミュオンを用いて火山体内部構造を視覚化するなどの、画期的な物体透視の研究を進めてきた。本公募では、上記の研究を着実に進展させる人材を募集する。なお、本公募で採用された者は、ミュオンを用いた地震学・地質学への応用や、大気ニュートリノ及び地球ニュートリノ等を用いた地球深部組成解明（密度計測、電子密度計測による物質同定）のための技術開発に取り組むとともに、高エネルギー素粒子地球物理学に閉じることなく、他の先進的物理学原理にもとづいた固体地球科学観測研究に資する技術開発にも貢献することが期待されている。また、このような研究活動や物理学専攻及び地球惑星科学専攻の実

験・演習やその他の教育活動を通じて、次世代の人材育成にかかわることも期待されている。

4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）
6. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織（分野）の職に5年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。また、本公募により雇用された助教は、採用後10年を目処に教授会による総括的評価が行われる。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

- (1) 東京大学統一履歴書（本学様式を http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「記入例7 [理系教員]」を参照）
- (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
- (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
- (4) 研究業績の概要（2000字程度）
- (5) 今後の研究計画（2000字程度）
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先とE-mailアドレス

8. 応募締切：平成27年10月30日（金）午後4時 必着
9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所 数理系研究部門 小屋口剛博

TEL：(03) 5841-2499 E-mail：tak@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「高エネルギー素粒子地球物理学分野 助教 応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

11. 関連ホームページ URL：

http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/?page_id=181

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

ご応募お待ちしております。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月17日送信しました）

【東京大学地震研究所】

1. 公募人員：教授1名
2. 所属：観測開発基盤センターあるいは地球計測系研究部門

3. 研究分野：固体地球計測技術分野

学際的な観測機器開発を通じて、先端的知見・技術を固体地球計測に応用し、新たな観測窓を開くとともに、国内外におけるリーダーとして本分野を取りまとめ、観測現場への適用を推進する人材を募集する。また、応募者は、このような研究活動、および大学院教育を通じて、次世代の人材育成にかかわることも期待されている。

4. 採用予定時期：採用決定後のできるだけ早い時期
5. 応募資格：博士の学位を有する者（外国での同等の学位を含む）

6. 任期について：本研究所の教員の任期に関する内規により、満55歳を超える教員については、次年度の初めに教員の所属する組織（分野）の職に5年以内の任期を定める。再任は本研究所教授会の承認を得た場合に1回限り可とする（ただし、東京大学教員の就業に関する規程に定めるところの定年による退職の日を超えることはできない）。なお、詳細については、問い合わせ先に照会のこと。

7. 提出書類：【提出書類は返却しません】

- (1) 東京大学統一履歴書（本学様式を http://www.u-tokyo.ac.jp/per01/r01_j.html よりダウンロードのうえ使用してください。記入例は「記入例7 [理系教員]」を参照）
- (2) 業績リスト（査読の有無を区別すること。投稿中の論文も含む。）
- (3) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
- (4) 研究業績の概要（開発研究を含む）（2000字程度）
- (5) 今後の研究・教育計画（2000字程度）
- (6) 応募者について参考意見をうかがえる方（2名）の氏名と連絡先とE-mailアドレス

8. 応募締切：平成27年10月30日（金）午後5時 必着
9. 問い合わせ先：東京大学地震研究所 観測開発基盤センター 篠原雅尚

TEL：(03) 5841-5794 E-mail：mshino@eri.u-tokyo.ac.jp

10. 応募書類提出先：

〒113-0032 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学地震研究所 庶務チーム（人事）宛

封書を用い、表に「固体地球計測技術分野 教授 応募書類在中」と朱書し、書留郵便で送付してください。

◎東京大学は2009年3月3日「男女共同参画加速のための宣言」を発表しました。

この宣言に基づき、教員・研究員の公募の際に、女性の応募を歓迎します。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月26日送信しました)

【東京工業大学火山流体研究センター】

1. 募集職種：研究員・1名
2. 資格等条件：平成27年4月1日現在35歳未満で、かつ着任時に博士の学位を有すること。
3. 業務内容：当センターの関連する研究分野における研究を行う。
詳細は以下を参照。 <http://www.ksvo.titech.ac.jp/>
4. 勤務予定地：

火山流体研究センター草津白根火山観測所（群馬県吾妻郡草津町草津 641-36）あるいは大岡山キャンパス火山流体研究センター（東京都目黒区大岡山 2-12-1）
5. 応募書類 以下の通り。
 - (1) 履歴書（写真貼付）：学歴（高校卒業以降）、職歴、資格、賞罰
 - (2) 業績目録：査読論文、査読なし論文、学会発表に分類すること。
 - (3) これまでの研究の概要および今後の研究の抱負（各A4で1枚）
 - (4) 主要論文別刷：5編以内
6. 応募方法：書類を電子メールに添付する。
7. 応募締切：平成27年9月7日（月）必着
8. 選考方法：書類選考による。
9. 内定通知：9月11日（金）までに通知
10. 雇用期間：平成27年10月1日以降なるべく早い時期～平成28年3月31日
※更新の可能性有り（ただし、最長で3年間）
11. 給与：月額約30万円
12. 勤務時間等

週5日・週10時間の勤務、休日（土日、祝日、年末年始（12/29～1/3））
有給休暇及びその他の休暇制度あり
13. 社会保険等：労働者災害補償保険
14. 応募書類提出先

〒152-8551 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学火山流体研究センター 小川康雄
oga@ksvo.titech.ac.jp
15. 問い合わせ先：火山流体研究センター 小川康雄
oga@ksvo.titech.ac.jp
(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月28日送信しました)

○その他公募

【地震火山部会】「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の実施機関の募集について
第7期科学技術・学術審議会測地学分科会
地震火山部会長 平田 直
「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」の実施機関の募集について

1. 募集機関：科学技術・学術審議会平成25年11月8日に建議された「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画の推進について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/toushin/attach/1341570.htm)の中で、取り組むべき「災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画」(以下、観測研究計画)について、参加する機関を募集します。(参考：http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/siryu/attach/1355587.htm)
2. 応募の条件：機関（部局）としての参加であるため、研究者の異動等に影響されず、継続的（出来るだけ長期間の参加を推奨するが、最低でも平成30年度まで）に参加出来ることが応募の条件です。また、実施機関（部局）として、他の実施機関（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/sonota/attach/1349357.htm）と共同研究を実施するなど連携して、責任を持って観測研究計画の課題に取り組み、毎年度末に1年間の成果を報告書にして提出して頂くことが応募の条件になります。
(参考：「地震及び火山噴火予知のための観測研究計画」平成25年度年次報告（機関別）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/sonota/1349615.htm)
3. 応募資格：観測研究計画を実施する機関（部局）の長
4. 提出書類：
 - (1) 観測研究計画に関連するこれまでの観測研究の成果リスト
 - (2) 主要論文の別刷り3編程度（コピー可）
 - (3) 観測研究業績の概要
 - (4) 今後の観測研究計画（様式1に従う、実施する課題の数だけ提出してください。」「現状の認識と長期的な方針」「本計画策定の基本的な考えと計画の概要」の趣旨に沿って、応募機関が実施する課題について提案して下さい。
 - (5) 組織概要（継続した取組が可能か判断できる資料）
5. 選考について：提出された書類をもとに以下の条件に基づき、科学技術・学術審議会測地学分科会地震火山部会にて決定します。

6. 実施機関の条件

- (1) 観測研究計画の趣旨に沿った計画となっていること
- (2) 科学的な研究手法に基づいた計画となっていること
- (3) 実施体制が整っていること

7. 募集締切：平成 27 年 6 月 24 日（水曜日）必着

8. 問合せ先及び書類提出先：

〒100-8959 東京都千代田区霞が関 3-2-2 中央合同庁舎 7 号館 18 階

文部科学省研究開発局地震・防災研究課 担当 重野
電話：03-5253-4111（代）（内線 4434）

ファクシミリ：03-6734-4139

電子メール：jishinkazan@mext.go.jp

9. 応募書類の提出：提出方法は、郵送又は持参の上、電子データ形式でも提出してください。

○郵送の場合

- ・簡易書留、宅配便等で送付してください。
- ・提案書類は紙媒体及び電子データ形式で提出してください。

○持参の場合

- ・受付時間：平日 10 時～17 時（12 時～13 時を除く）
- ・提案書類は紙媒体及び電子データ形式で提出してください。

詳しくは

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu6/toushin/1358407.htm を御覧下さい。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 5 日送信しました）

【平成 28 年度特定機器利用の公募】

東京大学地震研究所

1. 公募事項

(1) 特定機器利用

地震研究所では、全国の地震・火山の関連分野の研究遂行に資するため、施設・実験装置・観測機器等の共同利用を行っております。このうち、別表 M-3 にある特定機器についてのみ、来年度利用分より 1 年ごとの公募を行うこととしました。2ヵ月以上の利用を希望される場合には、以下の記載事項をご参照のうえ、期日までに必ず本所共同利用 HP (<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>) より Web 申請を行ってください。

本通知をはじめ、各種様式は本所共同利用 HP に掲載してあります。

2. 申請資格：国立大学法人、公・私立大学及び国・公立

研究機関の教員・研究者又はこれに準じる者。

3. 申請方法：共同利用 HP

(<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/shinseiyousiki.html>) にある様式 M-1 に必要事項を記載の上、上記 HP より Web 申請してください。

4. 研究期間：研究期間は、平成 28 年 4 月から平成 29 年 3 月までとします。

5. 申請期限：平成 27 年 7 月 31 日（金）【厳守】

なお、本申請は、年に 1 回ですが、臨時貸出の場合は、その限りではありません。

【共同利用ホームページ URL】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>

【WEB 申請はこちら】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 5 日送信しました）

【平成 28 年度国際室外国人客員教員の推薦公募】

東京大学地震研究所

1. 推薦者の資格：日本在住の、国立大学法人・公・私立大学及び国、公立研究機関の教授もしくは准教授またはこれに準ずる研究者

2. 被推薦者の資格と人数：教授、准教授、助教、博士号取得後研究者もしくはそれらに相当する研究歴をもつ外国在住の研究者 若干名

3. 雇用期間：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日のうち 3ヶ月以上

4. 研究分野：地震・火山および関連諸分野

5. 推薦締切：平成 27 年 8 月 31 日（月）必着

6. 提出書類：

- 応募用紙（様式 1：推薦者が記入のこと）1 部
- 被推薦者の履歴書 1 部
- 被推薦者の業績リスト 1 部
- 被推薦者の研究歴（英語で 300-500 語程度）1 部
- 被推薦者の地震研滞在期間の研究計画（英語で 300-500 語程度）1 部

7. 宛先及び問合せ：

〒113-0032 東京都文京区弥生 1-1-1

東京大学地震研究所 国際地震・火山研究推進室

佐竹健治

Tel. 03-5841-0219

電子メール：intl-office@eri.u-tokyo.ac.jp

8. 注意事項：「国際室外国人客員教員推薦応募書類在中」の旨を記し、書留郵便で送付するか、または電子メールに添付のファイルで送付すること。

9. 選考方法：東京大学地震研究所共同利用委員会が決

定する。

10. 採否の決定通知：9月末頃までに書面または電子メールにより通知する。

【共同利用ホームページ URL】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>

【WEB 申請はこちら】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月5日送信しました)

【平成28年地震研究所共同利用・特定研究課題登録のお知らせ】

東京大学地震研究所

1. 登録事項：特定共同研究 A、特定共同研究 B、及び特定共同研究 C の研究課題
2. 登録資格：国立大学法人、公・私立大学及び国・公立研究機関の教員・研究者又はこれに準じるもの。
3. 登録方法：本状添付の指定の様式 (T-1) に記入の上、Web より提出して下さい。

様式は地震研究所共同利用ホームページからもダウンロードできます。

(提出先) <https://www.pasreg.jp/reg/top/erikyodo/author>

(様式) <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/shinseiyousiki.html>

4. 登録期限：平成27年7月31日(金)

【共同利用ホームページ URL】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/index.html>

【WEB 申請はこちら】

<http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/sharing/info.html>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月5日送信しました)

【第36回猿橋賞募集のご案内】

一般財団法人女性科学者に明るい未来をの会

- 1) 対象：推薦締切日に50才未満で、自然科学の分野で、「創立の主旨に沿った」優れた研究業績を収めている女性科学者
- 2) 表彰内容：賞状、副賞として賞金30万円、1件(1名)
- 3) 応募方法：当会のホームページ <http://www.saruhashi.net/> から推薦書類をダウンロードし、A4用紙に印刷して、(1)推薦者(個人・団体、自薦も可)・受賞候補者の略歴・推薦対象となる研究題目、(2)推薦理由(800字程度)、及び(3)研究題目に関連する主な業績リスト(指定は1頁です。やむを得ない場合でも追加は1頁までです)を記入して、主な論文別刷5編程度(2部ずつ、コピーも可)を添え、5)の推薦書類送

付先までお送り下さい。

- 4) 締切日：2015年11月30日(必着)

- 5) 推薦書類送付先：

〒270-1147 千葉県我孫子市若松 165-5

女性科学者に明るい未来をの会

(当会の本宛先は推薦書受付専用です。書類は、猿橋賞選考のためにのみ選考委員会などで用いられます。書類は返却いたしませんのでご了承下さい)

今後、募集要項に変更がある場合は、ホームページに掲載いたしますので、応募の際はホームページをご確認下さい。なお、この件についての問い合わせは、下記に電子メールでお願いいたします。

saruhashi2015@saruhashi.net

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月12日送信しました)

【伊豆半島ジオパーク研究助成開始のお知らせ】

1. 補助対象研究

(1) 伊豆半島ジオパークにおける地形・地質調査研究

(2) 地域の関わり等に関する社会・人文科学調査研究

(3) その他伊豆半島ジオパーク推進協議会会長が認める調査研究

2. 補助対象者

原則として40歳までの大学生、大学院生、若手研究者等で、伊豆半島ジオパークを対象とした研究、調査を進める者。

3. 補助金の額等

- (1) 補助金の額

予算の範囲内で1件あたり上限20万円(5件程度採択予定)

ただし、補助対象研究は1補助対象者につき1件とします。

- (2) 補助対象経費

1. 調査研究のための交通費

※ガソリン代は調査に要したのもののみとする。

2. 調査研究のための宿泊費

3. 調査研究のための物品購入に要する経費

4. その他研究活動に要する経費で協議会会長が認めるもの

- (3) 補助率 10/10

4. 応募締切：平成27年7月31日

5. 申込先・問い合わせ先

伊豆半島ジオパーク推進協議会(伊東市役所内)

〒414-8555 静岡県伊東市大原 2-1-1

TEL : 0557-32-1784 FAX : 0557-35-9108

E-mail : info@izugeopark.org

詳細は以下のサイトをご確認ください。

http://izugeopark.org/2015/06/01/20150601_h27academic_support_izugeo/

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月23日送信しました)

【朝日賞】候補者推薦のお願い

「朝日賞」は、1929(昭和4)年に朝日新聞社が創刊50周年を記念して創設したものです。

人文や自然科学など、わが国のさまざまな分野において傑出した業績をあげ、文化、社会の発展、向上に多様な貢献をされた個人または団体にお贈りしております。

広く各界の皆様から候補者のご推薦を頂戴したあと、さらに幅広くご意見を伺ったうえ、朝日賞選考委員会で慎重に審議し、受賞者を決定いたします。

会員の方で、推薦する方がございましたら、8月18日(火)までに日本火山学会事務局にお知らせください。(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました)

【独立行政法人海洋研究開発機構】

平成28年度および平成29年度の海洋研究の実施にあたり、国立研究開発法人海洋研究開発機構が運営する「よこすか」、「かいいい」、「みらい」等を利用する課題の公募についてお知らせいたします。

(募集期間)

平成27年7月1日(水)～平成27年7月21日(火)

(午前9時必着)

詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

http://www.jamstec.go.jp/maritec/j/public_offering/application/2016/

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月2日送信しました)

○シンポジウム等の開催案内

【国際火山噴火史情報研究集会のお知らせ】

日時：2015年6月13日(土)～14日(日)

会場：京都大学地球熱学研究施設(大分県別府市)

主催：福岡大学産学官連携研究機関国際火山噴火史情報研究所

後援：阿蘇火山博物館、熊本大学大学院自然科学研究科減災型社会システム実践教育研究センター、京都大学大学院理学研究科附属地球熱学研究施設

プログラム：

6月13日(土)

9時～12時：セッション1「火山と地質」

1-1. 小林哲夫(鹿児島大)「露頭から読むカルデラ形成噴火とその前後の諸現象」

1-2. 堀川義之(福岡大)「西南日本の新生代後期珪長質マグマの起源」

1-3. 柴田知之(京都大)「九州の第四紀マグマの along arc variations」

1-4. 芳川雅子(京都大)・荒井章司・田村明弘(金沢大)・川本竜彦(京都大)・小林哲夫(鹿児島大)・奥野充(福岡大)・柴田知之(京都大)・D.J. Rivera, E.B. Bariso (PHIVOLCS)「ピナツボマントル捕獲岩に記録された火山フロント下ウェッジマントルでの含水流体による交代作用」

1-5. 山崎圭二・中西利典・奥野 充(福岡大)・鳥井真之(熊本大)・E. Bariso・D.J. Rivera・R. Lim・C. Pogay・A. Daag (PHIVOLCS)「フィリピン共和国、パイタン湖におけるボーリングコア試料の層序」

13時～18時：セッション2 テキスト「噴火史情報学入門」(1)

2-1. 奥野 充・鶴田直之(福岡大)「火山噴火史情報学とは何だろうか？」

2-2. 田口幸洋(福岡大)「地熱と温泉の地質学」

2-3. 奥野 充(福岡大)・小林哲夫(鹿児島大)「火山の地形・地質学」

2-4. 藤木利之(岡山理大)・鳥井真之(熊本大)「火山噴火と気候・植生」

2-5. 西園幸久・稲倉仁寛(西日本技術開発)「火山噴火と防災」

2-6. 鳥井真之(熊本大)「地質情報のデータベース」

6月14日(日)

9時～12時：セッション3 テキスト「噴火史情報学入門」(2)

3-1. 鶴田直之・高橋伸弥・奥村 勝(福岡大)「情報通信技術の基礎と活用」

3-2. 鮎沢 潤(福岡大)「地質情報と博物館」

3-3. 大野希一(島原半島GP)「火山とジオパーク」

3-4. 鳥井真之(熊本大)・奥野 充(福岡大)・竹内裕希子・長岡千香子・渡邊勇(熊本大)・池辺伸一郎(阿蘇火山博)・永田紘樹(阿蘇GP)・山口俊一(熊本气象台)・能登哲也(熊本県)・喜多敏博・松田泰治(熊本大)「阿蘇火山における地域防災対策支援研究プロジェクトに関する取り組み」

13時～16時：セッション4「地質と情報」

4-1. 竹村恵二(京都大)「ボーリングデータベースと活断層調査」

- 4-2. 中西利典 (福岡大)・竹村恵二 (京都大)「ボーリング調査で生じる地質情報」
- 4-3. ホン ワン (KIGAM)「KIGAMでの分析データの管理活用」
- 4-4. 中村洋介・三村 悟 (福島大)「災害時の応急避難生活」
- 4-5. 高橋伸弥 (福岡大)「従来型のデータベース構築とは異なるアプローチによる利用者参加型噴火史データベースシステムの構築」
- 4-6. 奥村 勝・矢羽田優輝 (福岡大)「ジオパークにおける体験価値向上を目指すガイドアプリケーションの開発」
- (上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月1日送信しました)

【平成27年度京都大学防災研究所特定研究集会】

平成27年度京都大学防災研究所特定研究集会 27C-03
火山学における人材育成—過去20年の振り返り今後20年を展望する—

共催：日本火山学会

日程：2015年8月1日(土)13時～18時

8月2日(日)9時～12時

場所：京都大学宇治キャンパスおおばくプラザ きはだホール

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/map6r_uji.html

宇治キャンパス構内マップの3

参加申込み不要・無料

趣旨：社会からの多様な要請に応えることが、学術分野にもますます求められるようになってきた。そこで、火山の専門家が社会で果たしうる役割を掘り起こし、学術分野としての火山学における人材育成のあり方を議論する。

プログラム(仮)：※タイトル仮

8/1

- 13:00 開会の挨拶・趣旨説明：井口正人(研究集会代表・日本火山学会会長)
- 第一部 社会からの多様なニーズの発掘と人材育成への期待
- 13:05 第一部趣旨説明(座長)：竹内晋吾
- 13:10 学校教育を通してみた火山研究と人材への期待 藤 一郎
- 13:35 コンサルティングからみた火山研究と人材への期待 鴨志田 毅
- 14:00 総合科学としての火山学とその資源エネルギー開発での学術的期待 三ヶ田均

- 14:25 防災担当者からみた火山研究者への期待 田鍋敏也
- 14:50 休憩
- 第二部 研究および業務現場における人材育成の現状と方策
- 15:10 第二部趣旨説明(座長)：長谷川 健
- 15:15 地球惑星科学分野における博士号取得者を取り巻く環境の変化 久利美和
- 15:40 大学における火山研究と人材育成 武尾 実
- 16:05 産総研における火山研究と人材育成 伊藤順一
- 16:30 気象庁の火山業務と人材育成 菅野智之
- 16:55 火山噴火予知研究と人材育成 清水 洋
- 17:20 ここまでの議論
- 17:40 終了予定

8/2

- 第一部 社会からの多様なニーズの発掘と人材育成への期待
- 座長 中道治久 京大防災研
- 9:00 ジオパーク活動を通してみた火山研究と人材への期待 大野希一
- 第二部 研究および業務現場における人材育成の現状と方策
- 9:25 コンサルティング企業における火山関連事業と人材育成 千葉達朗
- 第三部 社会からのニーズに対する学術活動における人材育成戦略
- 9:50 これまでの講演のサマリー 中道治久
- 10:10 パネルディスカッション
パネリスト 田鍋敏也, 千葉達朗, 井口正人, 市原美恵
ファシリテータ 中道治久
- 12:10 閉会の挨拶 市原美恵
- 12:15 終了予定

★夏休みのしかも土日の日程です。京都市内の宿の確保が困難になってきますので早めの確保をお願いします。京都市内での確保が困難な場合は、JR大津駅周辺(滋賀県大津市)に宿泊する手があります。京大宇治キャンパスまでのアクセス時間は大差ありません。

★実行委員会 中道治久(委員長・火山学会60周年事業委・WG3), 竹内晋吾(火山学会60周年事業委・WG2長), 鬼澤真也(火山学会60周年事業委・WG2), 長谷川健(火山学会60周年事業委・WG3長), 市原美恵(火山学会60周年事業委員長)

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月1日送信しました)

【アメリカ地質学会 (Geological Society of America) ・書籍のご案内】

アメリカ地質学会 (Geological Society of America) から巨大火成区と環境影響の本が出版されましたのご案内いたします。

(下記 URL)

<http://specialpapers.gsapubs.org/content/current>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月5日送信しました)

【原子力機構_地層処分技術に関する研究開発報告会 (7/14)のご案内】

原子力機構では7月14日(火)の午後、東京都内にて、「地層処分技術に関する研究開発報告会—第2次取りまとめ以降の研究開発の進展と今後の展開—」と題した報告会を、以下の通り開催いたします。

- (1) 日時：平成27年7月14日(火) 13:00~16:30 (受付開始 12:00)
- (2) 会場：コクヨホール (東京都港区港南 1-8-35)
- (3) 定員：250名程度 (事前登録制)
- (4) 参加費：無料
- (5) 主催：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

参加をご希望の方は、氏名(フリガナ)、所属、連絡先を明記のうえ、7月9日(木)までに電子メールにて報告会事務局宛てにお申し込みください。

(報告会事務局)

日本原子力研究開発機構バックエンド研究開発部門
地層処分研究開発推進部処分システム研究計画推進課
担当：山口、能登屋

電話：029-287-3247

電子メール：chiso-houkokukai2015@jaea.go.jp

詳細は下記をご覧ください。

http://www.jaea.go.jp/04/tisou/houkokukai/pdf/nendo_h27_guide.pdf

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月26日送信しました)

【第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク (APGN) 山陰海岸シンポジウム (再送)】

※参加登録の締切りが7月31日(金)となりますので再度のご連絡です。

・会期

平成27年9月15日(火)~20日(日)

・会場

開会式 9月17日(木)：

豊岡市民会館 (豊岡市立野町 20-34) 他

閉会式 9月19日(土)：

鳥取環境大学 (鳥取市若葉台北 1-1-1)

・第4回 APGN 山陰海岸シンポジウムホームページアドレス

<http://www.apgn-sanin2015.com/>

・問い合わせ先

第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会事務局

(山陰海岸ジオパーク推進協議会内)

TEL 0796-26-3629

FAX 0796-26-3785

E-mail geopark@pref.hyogo.lg.jp

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月3日送信しました)

【平成27年度京都大学防災研究所特定研究集会 27C-03 火山学における人材育成—過去20年の振り返り今後20年を展望する—】

日程：2015年8月1日(土) 13時~18時

8月2日(日) 9時~12時

場所：京都大学宇治キャンパスおおばくプラザ きはだホール

主催：京都大学防災研究所、共催：NPO 法人日本火山学会

参加費：無料

懇親会：1日 18:00~20:00 おおばくプラザ「レストランきはだ」 会費 5000円

趣旨：社会からの多様な要請に応えることが、学術分野にもますます求められるようになってきた。そこで、火山の専門家が社会で果たしうる役割を掘り起こし、学術分野としての火山学における人材育成のあり方を議論する。

プログラム：

8/1

13:00 開会の挨拶・趣旨説明：井口正人 (京都大学防災研究所、火山学会会長)

第一部 社会からの多様なニーズの発掘と人材育成への期待

13:05 第一部趣旨説明 (座長)：竹内晋吾 (電力中央研究所)

13:10 学校教育を通してみた火山研究と人材への期待
藤 一郎 (大阪府立阿倍野高等学校)

13:35 ジオパーク活動を通してみた火山研究と人材への期待
大野希一 (鳥原ジオパーク協議会)

14:00 コンサルティングからみた火山研究と人材への期待
鴨志田 毅 (地圏総合コンサルタント)

- 14:25 総合科学としての火山学とその資源エネルギー開発での学術的期待
三ヶ田 均 (京都大学大学院工学研究科)
- 14:50 防災担当者からみた火山研究者への期待
田鍋敏也 (社警町教育委員会)
- 15:15 休憩
- 第二部 研究および業務現場における人材育成の現状と方策
- 15:30 第二部趣旨説明 (座長): 長谷川 健 (茨城大学理学部)
- 15:35 地球惑星科学分野における博士号取得者を取り巻く環境の変化
久利美和 (東北大学災害科学国際研究所)
- 16:00 大学における火山研究と人材育成
武尾 実 (東京大学地震研究所)
- 16:25 産総研における火山研究と人材育成
伊藤順一 (産業技術総合研究所)
- 16:50 気象庁の火山業務と人材育成
菅野智之 (気象庁)
- 17:15 文部科学省における火山研究人材育成の取組
森澤敏哉 (文部科学省)
- 17:30 火山噴火予知研究と人材育成
清水 洋 (九州大学大学院理学研究院)
- 17:55 終了予定
- 8/2
- 第二部 研究および業務現場における人材育成の現状と方策
座長 中道治久 (京都大学防災研究所)
- 9:00 防災科研における火山研究と人材育成
上田英樹 (防災科学技術研究所)
- 9:25 コンサルティング企業における火山関連事業と人材育成 千葉達朗 (アジア航測総合研究所)
- 第三部 社会からのニーズに対する学術活動における人材育成戦略
- 9:50 これまでの講演のサマリー 中道治久
- 10:10 パネルディスカッション
パネリスト 田鍋敏也, 千葉達朗, 井口正人, 市原美恵
ファシリテーター 中道治久
- 12:10 閉会の挨拶 市原美恵 (東京大学地震研究所)
- 12:15 終了予定
- ★実行委員会 中道治久 (委員長・火山学会 60 周年事業委・WG3), 竹内晋吾 (火山学会 60 周年事業委・WG2 長), 鬼澤真也 (火山学会 60 周年事業委・WG2), 長谷川健 (火山学会 60 周年事業委・WG3 長), 市原美恵 (火山学会 60 周年事業委員長)

★発表スライド (差し支えない範囲で) を講演者からご提供頂き, 日本火山学会 60 周年事業報告書の作成の参考にさせていただきます。

★懇親会は中道 (京大防災研) まで出席のご連絡をください。連絡先は下記です。申込みメチ 7 月 24 日 (金) です。

Tel: 099-293-2058

e-mail: nakamiti@svo.dpri.kyoto-u.ac.jp

★広報・案内について

・日本火山学会, 日本地球惑星科学連合とその関連学会, および, 京大防災研教職員・院生に開催のおしらせをします。

・日本火山学会と京大防災研の HP に案内を掲載します。

・他大学の教職員・学生や一般の方々への参加も歓迎します。

・報道関係の方々へ: お問い合わせは上記, 中道 (京大防災研) まで。報道するには個別発表者にあらためて取材と了解が必要です。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 7 月 6 日送信しました)

【2015 年度火山性流体討論会参加者募集】

名称: 2015 年度火山性流体討論会

日時: 2015 年 10 月 16 日 (金) 午後から 10 月 18 日 (日) 昼まで

場所: 草津セミナーハウス (群馬県吾妻郡草津町)

http://www.gunma-u.ac.jp/html/campus/campuslife_12.html

内容: 口頭・ポスターによる討論会, 最終日午後にオプションとして草津白根山・町内の巡検 (追って詳細をご連絡します)

費用: 2 泊 3 日食事込でおよそ 8000 円 (関東甲信越地区国立大学の方は若干安くなります), 旅費補助なし。学生対象に傾斜をつける予定。

募集締め切り: 8 月 17 日 (月)

草津白根山は現在「噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制)」であり, 小規模な水蒸気爆発が起こる可能性があることから山頂部の火口湖周辺 1 km の立ち入りが規制されています。

過去の火山性流体討論会については以下をご参照ください。

<https://staff.aist.go.jp/miyagi.iso14000/Works/Seminar/VolFlu/>

参加希望の方は, 下記フォームに沿って記入いただき,

潮田 (m.ushioda@aist.go.jp) までご返信をお願いいたします。

もしよろしければ、火山性流体討論会に興味がありそのような学生さんなどにご周知をお願いいたします。

ご応募お待ちしております。

1. 氏名 (ふりがな) :
2. 性別 :
3. 連絡先 (メールアドレス) :
4. 所属 :
5. 身分 (学年など) :
6. 発表希望 : 口頭・ポスター・しない (発表する場合、仮タイトル)
7. 利用予定の交通手段・経路 (手段によってはお迎えに上がります) :
8. 宿泊予定 (○ or ×) :
10/16
10/17
9. 必要な食事 (○ or ×) :
10/16 夕 (BBQ の予定)
10/17 朝
10/17 昼
10/17 夕
10/18 朝
10. 最終日午後の巡検 (オプション) の参加希望 :
希望する or 希望しない
最終日の昼食 :
希望する ・ 希望しない

11. その他ご要望等

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 3 日送信しました)

【2015 年度火山性流体討論会参加者募集 (申し込み締め切り延長 8/24 (月) まで)】

名称 : 2015 年度火山性流体討論会

日時 : 2015 年 10 月 16 日 (金) 午後から 10 月 18 日 (日) 昼まで

場所 : 草津セミナーハウス (群馬県吾妻郡草津町)
http://www.gunma-u.ac.jp/html_campus/campuslife_12.html

内容 : 口頭・ポスターによる討論会、最終日午後にオプションとして草津白根山・町内の巡検 (追って詳細をご連絡します)

費用 : 2 泊 3 日食事込でおよそ 8000 円 (関東甲信越地区国立大学の方は若干安くなります)、旅費補助

なし。学生対象に傾斜をつける予定。

募集締め切り : 8 月 17 日 (月) → 8 月 24 日 (月) まで延長

草津白根山は現在「噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制)」であり、小規模な水蒸気爆発が起こる可能性があることから山頂部の火口湖周辺 1 km の立ち入りが規制されています。

過去の火山性流体討論会については以下をご参照ください。

<https://staff.aist.go.jp/miyagi.iso14000/Works/Seminar/VolFlu/>

参加希望の方は、下記フォームに沿って記入いただき、産総研の潮田 (m.ushioda@aist.go.jp) までご返信をお願いいたします。

もしよろしければ、火山性流体討論会に興味がありそのような学生さんなどにご周知をお願いいたします。

ご応募お待ちしております。

1. 氏名 (ふりがな) :
2. 性別 :
3. 連絡先 (メールアドレス) :
4. 所属 :
5. 身分 (学年など) :
6. 発表希望 : 口頭・ポスター・しない (発表する場合、仮タイトル)
7. 利用予定の交通手段・経路 (手段によってはお迎えに上がります) :
8. 宿泊予定 (○ or ×) :
10/16
10/17
9. 必要な食事 (○ or ×) :
10/16 夕 (BBQ の予定)
10/17 朝
10/17 昼
10/17 夕
10/18 朝
10. 最終日午後の巡検 (オプション) の参加希望 :
希望する or 希望しない
最終日の昼食 :
希望する ・ 希望しない

11. その他ご要望等

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 8 月 19 日送信しました)

○その他のご案内

【高レベル放射性廃棄物の地層処分に関する「地層処分技術 WG のこれまでの議論の整理」について意見の募集】

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 地層処分技術 WG では、2014年5月の「中間とりまとめ」において、高レベル放射性廃棄物の地層処分に求められる好ましい地質環境とその長期安定性について考え方を整理するとともに、後者の長期安定性の確保については、求められる地質環境に著しい影響を与える天然事象を回避するための段階的調査の考え方も整理しました。

その後、2014年12月から再開した地層処分技術 WG では、上記「中間とりまとめ」も踏まえつつ、「国は、科学的により適性が高いと考えられる地域(科学的有望地)を示す」との国の方針の下、この科学的有望地の要件・基準の議論を行っています。これまで計5回の審議を実施し、議論の前提となる概念整理を行うとともに、安全性確保に関する事項を中心に要件・基準に関する議論を行ってまいりました。

地層処分技術 WG の議論は、引き続き行っていく予定ですが、これまでの議論の内容の科学的妥当性について検証し、今後の議論の参考にするため、この段階でこれまでの議論を整理し、要件・基準の検討手順、想定されるリスク、検討結果及び現時点で使用可能と整理している文献・データについてその妥当性に関する専門家の御意見を募集することとしました。

〈公募ページ URL〉

http://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/rw/gjjutsu-iken.html

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月26日送信しました)

○EPS 関係

【IUGG での EPS 誌ブースのご案内】

EPS 誌では、6/22-7/2 にプラハで開催される 26th IUGG General Assembly にブースを出展しますので、ご案内します。

Exhibition floor plan が以下の URL でご覧頂けます。EPS 誌のブースは7番です。

< <http://www.iugg2015prague.com/exhibition.htm> >

ブースでは Frontier letter や特集号のリーフレットの配布の他、海外研究者向けのアンケートを企画しています (IUGG でも T シャツなどのお土産を用意しています)。

IUGG に参加される会員のみならず、海外のご友人と連れ立って訪問いただけましたら幸いです。

今後ともどうぞよろしくお願いたします。

EPS 誌関係者一同

<http://www.earth-planets-space.org>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月18日送信しました)

【Contents Service: Earth, Planets and Space, Vol. 67 April & May 2015】

=====

Earth, Planets and Space (EPS)

Contents: Vol. 67

Published: April & May 2015

Manuscript No.45-83

<http://www.earth-planets-space.com/content>

=====

Full paper

Records of sunspot and aurora during CE 960-1279 in the Chinese chronicle of the Song dynasty Hisashi Hayakawa, Harufumi Tamazawa, Akito Kawamura, Hiroaki Isobe Earth, Planets and Space 2015, 67: 82 (29 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/82>

Full paper

A candidate secular variation model for IGRF-12 based on Swarm data and inverse geodynamo modelling Alexandre Fournier, Julien Aubert, Erwan Thébault Earth, Planets and Space 2015, 67: 81 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/81>

Letter

Discrepant responses of the global electron content to the solar cycle and solar rotation variations of EUV irradiance Yiding Chen, Libo Liu, Huijun Le, Hui Zhang Earth, Planets and Space 2015, 67: 80 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/80>

Letter

International Geomagnetic Reference Field: the 12th generation Erwan Thébault, Christopher C Finlay, Ciarán D Beggan, Patrick Alken, Julien Aubert, Olivier Barrois, Francois Bertrand, Tatiana Bondar, Axel Boness, Laura Brocco, Elisabeth Canet, Aude Chambodut, Arnaud Chulliat, Pierdaveide Coisson, François Civet, Aimin Du, Alexandre Fournier, Isabelle Fratter, Nicolas Gillet, Brian Hamilton, Mohamed Hamoudi, Gauthier Hulot, Thomas Jager, Monika Korte, Weijia Kuang, Xavier Lalanne, Benoit Langlais, Jean-Michel Léger, Vincent Lesur, Frank J Lowes et al.

Earth, Planets and Space 2015, 67: 79 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/79>

Full paper

Estimating the solar wind conditions during an extreme geomagnetic storm: a case study of the event that occurred on March 13–14, 1989 Tsutomu Nagatsuma, Ryuho Kataoka, Manabu Kunitake *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 78 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/78>

Full paper

Estimation of geomagnetically induced currents based on the measurement data of a transformer in a Japanese power network and geoelectric field observations Shinichi Watari *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 77 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/77>

Letter

Transition from collision to subduction and its relation to slab seismicity and plate coupling Ryuta Arai, Takaya Iwasaki *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 76 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/76>

Full paper

Temporal change of EIA asymmetry revealed by a beacon receiver network in Southeast Asia Kornyanat Watthanasangmechai, Mamoru Yamamoto, Akinori Saito, Takashi Maruyama, Tatsuhiro Yokoyama, Michi Nishioka, Mamoru Ishii *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 75 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/75>

Full paper

Effects of pre-reversal enhancement of $E \times B$ drift on the latitudinal extension of plasma bubble in Southeast Asia Prayitno Abadi, Yuichi Otsuka, Takuya Tsugawa *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 74 (27 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/74>

Full paper

The hard sphere view of the outer core

George Helffrich

Earth, Planets and Space 2015, 67: 73 (21 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/73>

Full paper

JMSS-1: a new Martian soil simulant

Xiaojia Zeng, Xiongyao Li, Shijie Wang, Shijie Li, Nicole Spring, Hong Tang, Yang Li, Junming Feng *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 72 (20 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/72>

Full paper

Stochastic forecasting of the geomagnetic field from the

COV-OBS. x1 geomagnetic field model, and candidate models for IGRF-12 Nicolas Gillet, Olivier Barrois, Christopher C Finlay *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 71 (14 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/71>

Technical report

GEOMAGIA50.v3: 1. general structure and modifications to the archeological and volcanic database Maxwell C Brown, Fabio Donadini, Monika Korte, Andreas Nilsson, Kimmo Korhonen, Alexandra Lodge, Stacey N Lengyel, Catherine G Constable *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 83 (12 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/83>

Technical report

GEOMAGIA50.v3: 2. A new paleomagnetic database for lake and marine sediments Maxwell C Brown, Fabio Donadini, Andreas Nilsson, Sanja Panovska, Ute Frank, Kimmo Korhonen, Maximilian Schuberth, Monika Korte, Catherine G Constable *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 70 (12 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/70>

Full paper

The BGS magnetic field candidate models for the 12th generation IGRF Brian Hamilton, Victoria A Ridley, Ciarán D Beggan, Susan Macmillan *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 69 (12 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/69>

Full paper

NOAA/NGDC candidate models for the 12th generation International Geomagnetic Reference Field Patrick Alken, Stefan Maus, Arnaud Chulliat, Chandrasekharan Manoj *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 68 (12 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/68>

Letter

ToF-SIMS analysis of carbonaceous particles in the sample catcher of the Hayabusa spacecraft Hiroshi Naraoka, Dan Aoki, Kazuhiko Fukushima, Masayuki Uesugi, Motoo Ito, Fumio Kitajima, Hajime Mita, Hikaru Yabuta, Yoshinori Takano, Toru Yada, Yukihiro Ishibashi, Yuzuru Karouji, Takaaki Okada, Masanao Abe *Earth, Planets and Space* 2015, 67: 67 (10 May 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/67>

Full paper

Paleomagnetism and U-Pb geochronology of the late Cretaceous Chisulryoung Volcanic Formation, Korea: tectonic evolution of the Korean Peninsula Doohee Jeong, Yongjae

- Yu, Seong-Jae Doh, Dongwoo Suk, Jeongmin Kim Earth, Planets and Space 2015, 67: 66 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/66>
 Full paper
 What caused the rapid recovery of the Carrington storm? Kunihiro Keika, Yusuke Ebihara, Ryuho Kataoka Earth, Planets and Space 2015, 67: 65 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/65>
 Letter
 Reconstruction of the geometry of volcanic vents by trajectory tracking of fast ejecta - the case of the Eyjafjallajökull 2010 eruption (Iceland) Tobias Dürig, Magnus T Gudmundsson, Pierfrancesco Dellino Earth, Planets and Space 2015, 67: 64 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/64>
 Full paper
 Archeointensity study on baked clay samples taken from the reconstructed ancient kiln: implication for validity of the Tsunakawa-Shaw paleointensity method Yuhji Yamamoto, Masayuki Torii, Nobuyoshi Natsuhara Earth, Planets and Space 2015, 67: 63 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/63>
 Full paper
 The characteristics of geoelectric fields at Kakioka, Kanoya, and Memambetsu inferred from voltage measurements during 2000 to 2011 Ikuko Fujii, Takashi Ookawa, Shingo Nagamachi, Takeshi Owada Earth, Planets and Space 2015, 67: 62 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/62>
 Full paper
 Characterizing magnetic mineral assemblages of surface sediments from major Asian dust sources and implications for the Chinese loess magnetism Qingsong Liu, Youbin Sun, Xiaoke Qiang, Ryuji Tada, Pengxiang Hu, Zongqi Duan, Zhaoxia Jiang, Jianxing Liu, Kai Su Earth, Planets and Space 2015, 67: 61 (8 May 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/61>
 Frontier letter
 Orbital evolution of planetesimals in gaseous disks Hiroshi Kobayashi Earth, Planets and Space 2015, 67: 60 (30 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/60>
 Frontier letter
 Statistical properties of superflares on solar-type stars based on 1-min cadence data Hiroyuki Maehara, Takuya Shibayama, Yuta Notsu, Shota Notsu, Satoshi Honda, Daisaku Nogami, Kazunari Shibata Earth, Planets and Space 2015, 67: 59 (29 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/59>
 Full paper
 Observatory geoelectric fields induced in a two-layer lithosphere during magnetic storms Jeffrey J Love, Andrei Swidinsky Earth, Planets and Space 2015, 67: 58 (28 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/58>
 Frontier letter
 In-flight performance of the Absolute Scalar Magnetometer vector mode on board the Swarm satellites Jean-Michel Léger, Thomas Jager, François Bertrand, Gauthier Hulot, Laura Brocco, Pierre Vigneron, Xavier Lalanne, Arnaud Chulliat, Isabelle Fratter Earth, Planets and Space 2015, 67: 57 (25 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/57>
 Letter
 Interval modulation of recurrent slow slip events by two types of earthquake loading Yuta Mitsui Earth, Planets and Space 2015, 67: 56 (25 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/56>
 Technical report
 Systematic monitoring of instrumentation health in high-density broadband seismic networks Takeshi Kimura, Hiroshi Murakami, Takumi Matsumoto Earth, Planets and Space 2015, 67: 55 (23 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/55>
 Letter
 Search for solar neutrons at Mount Chacaltaya associated with M- and X-class flares during the rising period of solar cycle 24 Diego Lopez, Yutaka Matsubara Earth, Planets and Space 2015, 67: 54 (23 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/54>
 Letter
 Vertical movements of the Muroto mud volcano in Japan caused by the Naganoken Kamishiro Fault Earthquake in 2014 Shigekazu Kusumoto, Toshiki Hamamoto, Yoichi Fukuda, Atsushi Takahashi Earth, Planets and Space 2015, 67: 53 (17 April 2015)
<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/53>
 Letter
 Stress state in the upper crust around the source region of the 1891 Nobi earthquake through shear wave polarization anisotropy Yoshihiro Hiramatsu, Takashi Iidaka, The Research Group for the Joint Seismic Observations at the

Nobi Area Earth, Planets and Space 2015, 67: 52 (17 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/52>

Full paper

Role of orography in inducing high lightning flash rate at the foothills of Himalaya Sunil D Pawar, Venkatachalam Gopalakrishnan, Palani Murugavel Earth, Planets and Space 2015, 67: 51 (16 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/51>

Full paper

ELF magnetic fluctuations detected by Kaguya in deepest lunar wake associated with type-II protons Tomoko Nakagawa, Tatsuya Nakashima, Takuya Wada, Hideo Tsunakawa, Futoshi Takahashi, Hidetoshi Shibuya, Hisayoshi Shimizu, Masaki Matsushima, Yoshifumi Saito Earth, Planets and Space 2015, 67: 50 (15 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/50>

Frontier letter

A high-resolution global Vlasov simulation of a small dielectric body with a weak intrinsic magnetic field on the K computer Takayuki Umeda, Keiichiro Fukazawa Earth, Planets and Space 2015, 67: 49 (11 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/49>

Full paper

Diffuse CO₂ degassing and volcanic activity at Cape Verde islands, West Africa Samara M Dionis, Nemesio M Pérez, Pedro A Hernández, Gladys Melián, Fátima Rodríguez, Eleazar Padrón, Hirochika Sumino, Jose Barrancos, Germán D Padilla, Paulo Fernandes, Zuleyka Bandomo, Sónia Silva, Jose M Pereira, Hélio Semedo, Jeremias Cabral Earth, Planets and Space 2015, 67: 48 (10 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/48>

Letter

Acoustic-gravity waves in the atmosphere generated by infragravity waves in the ocean Oleg A Godin, Nikolay A Zobotin, Terence W Bullett Earth, Planets and Space 2015, 67: 47 (2 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/47>

Preface

Special issue ‘Geofluid processes in subduction zones and mantle dynamics’

Tatsuhiko Kawamoto, Junichi Nakajima, Bruno Reynard, Hiroaki Toh Earth, Planets and Space 2015, 67: 46 (1 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/46>

Letter

Structural characteristics of the Bayonnaise Knoll caldera as revealed by a high-resolution seismic reflection survey Mikiya Yamashita, Takafumi Kasaya, Narumi Takahashi, Kaoru Takizawa, Shuichi Kodaira Earth, Planets and Space 2015, 67: 45 (1 April 2015)

<http://www.earth-planets-space.com/content/67/1/45>

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月25日送信しました)

○地球惑星科学連合関係

【地球惑星科学連合2016年大会セッション提案状況ご報告のお願い】

標記について、すでに連合メールニュースで提案の募集案内がありましたが、関連される方々は既にご準備を始めている頃かと思えます。

毎年、コンビーナの方々からはコマ割り等々ご苦労されていることを耳にします。また、会員諸氏からも大会日程等について改善すべきとのご意見を頂く機会も多くなっています。

そこで、先日の総会で報告しましたとおり、火山学会では、事前に提案状況を把握し、セッション間の情報交換に資するため、提案者の皆様に提案状況を下記の通り、お知らせ頂くことに致しました。来年の連合大会にセッション提案される方は、当該セッションが火山学会の主・共催でない場合も含め、また、国際・国内セッション問わず、提案前にご一報頂ければ有り難いです。

なお、あくまでも学会員の公益に資するための提案状況把握であり、自由な提案・開催を制約するためのものではありません。ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します。

◎お知らせ頂く事項>

セッション名:

コンビーナー:

セッション趣旨:

セッション形式: 国内 or 国際

想定コマ数:

◎期日: 提案予定であればできるだけ早く(その後、提案されなかった場合はその旨ご連絡頂ければ結構です)

◎送付先: 火山学会事務局 (kazan-gakkai@kazan.or.jp)

日本火山学会 大会委員会

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月31日送信しました)

○秋季大会関係

【日本火山学会 2015 年度秋季大会のご案内】

日本火山学会 2015 年度秋季大会は、富山大学五福キャンパスの黒田講堂、共通教育棟および理学部棟で開催されます。富山大学五福キャンパスは富山市の西部に位置し、市中心部（JR 富山駅）からバスや市電でわずか 10～20 分とアクセスも非常に便利です。

今大会では、9 月 28 日～30 日の学術講演会のほか、9 月 27 日には一般公開のシンポジウムや子供向け公開講座が開催されます。また学術講演会後には、立山での現地討論会が予定されています。

本年は日本火山学会創立 60 周年目にあたりますので、会期中に記念式典と祝賀会が開催されます。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/>

1. 会期・会場

1.1 会期 2015 年 9 月 27 日（日）～10 月 2 日（金）

- ・学術講演会：2015 年 9 月 28 日（月）～9 月 30 日（水）
- ・火山防災シンポジウム・公開講座：9 月 27 日（日）
- ・ジオツアー：9 月 27 日（日）
- ・現地討論会 立山火山：10 月 1 日（木）～10 月 2 日（金）

1.2 会場

富山大学五福キャンパス 共通教育棟、理学部棟
および黒田講堂ホール

〒930-8555 富山県富山市五福 3190

<https://www.u-toyama.ac.jp/access/gofuku/index.html>

会場アクセス：JR 富山駅から市電「大学前」もしくは富山地铁バス「富山大学経由」大学前下車。

2. 講演申込み

6 月 29 日（月）より受付を開始します。Web（または郵送）により投稿ください。

投稿締切り：

Web による申し込み：7 月 30 日（木）午後 4 時

投稿先 URL

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/application.html>

予稿原稿（PDF ファイル）送信先

kazan-taikai@kazan.or.jp

郵送による申し込み：7 月 24 日（金）学会事務局必着
郵送による投稿先（郵送先）※ FAX では受付ません

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9-406

日本火山学会事務局

3. 参加料（講演予稿集込み）

会員：2,000 円（学生・満 70 歳以上は半額）

非会員：4,000 円

※予稿集のみの販売も同額になります。事前に予稿集の入手を希望する方は、9 月 16 日（水）までに送付先・送付希望冊数を明記して学会事務局にお申し込みください。

発行は 9 月中旬を予定しております。

※学部学生・高校生等の参加料は無料ですが、予稿集は別途購入してください（1,000 円）

※参加料の請求書払い（校費・公費払い）を希望される方は 9 月 16 日（水）午後 4 時までに学会事務局（kazan-gakkai@kazan.or.jp）にメールでご連絡ください。

4. 講演・ポスター

口頭発表の 1 講演は質問を含め 15 分です。

ポスターパネルの大きさは幅約 90 cm、高さ約 210 cm です。

ポスター会場には電源がありませんので、電源の必要なパソコンやビデオの使用はできません。口頭発表数に余裕がある場合、ポスター発表内容を講演会場にて簡単に口頭説明していただく場合があります。

5. 特別セッション（一般公開）

「活動的火山を抱えるジオパークや観光地からの情報発信のあり方」9 月 28 日（月）午前予定

本セッションの講演は、講演数制限（1 会員あたり、口頭発表およびポスター発表 1 件）に含まれません。また本セッションには招待講演が含まれます。

会員以外で講演を希望される方はジオパーク支援委員会（中田節也委員長 nakada@eri.u-tokyo.ac.jp）までお問い合わせください。

6. 秋季大会に関する連絡先

〒113-0033 東京都文京区本郷 6-2-9-406 日本火山学会事務局 03-3813-7421

2015 年度秋季大会実行委員会

E-mail：kazan015@sci.u-toyama.ac.jp

皆様のご参加をお待ちしております。

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに 6 月 24 日送信しました）

【2015 年秋季大会 現地討論会・ジオツアーのご案内】

日本火山学会 2015 年秋季大会では、現地討論会、ジオツアーへの参加者を募集いたします。

多数の参加申込をお待ちしております。

尚、定員に達し次第、申込終了とさせていただきますので予めご了承ください。

詳細は、大会ホームページ <http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/index.html#excursion> をご覧ください

1. 現地討論会「立山（弥陀ヶ原）火山」

実施日：10月1日（水）～2日（1泊2日）

案内者：中野 俊・奥野 充・石崎泰男

参加費：18,000円（交通費・宿泊費（2食付き）・旅行保険・2日目の弁当代を含む）

募集人数：20名

10月1日 JR 富山駅集合（8：00）、室堂山荘泊、2日 JR 富山駅解散（15：00）

JR 富山駅と室堂ターミナルの往復には貸切バスを使います。

見学地は、地獄谷、立山カルデラ、室堂平～天狗平（地獄谷を給源とする完新世テフラ）、称名滝他を予定しています。

問合せ先・申込先：石崎泰男

ishizaki@sci.u-toyama.ac.jp

備考：登山向きの靴（軽登山靴、ハイキングシューズ、長靴など）・雨具・防寒具をご用意ください。

ヘルメットとガスマスク（地獄谷に入域するときには必要）は貸し出す予定ですが、ガスマスクについては持っている方は持参していただけると助かります。

2. ジオツアー「黒部川の峡谷（黒薙温泉）と扇状地（みずはくツアー 2015）」

実施日：9月27日

案内者：山本隆治・君島勝（フィールドミュージアム水博物館）

参加費：10,000円（交通費・昼食代、入浴料、旅行保険を含む）

募集人数：20名

北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅集合（10：18）・解散（17：25）

黒部渓谷トロッコ電車と貸切バスを用いて巡検を行います。

見学地は、黒部峡谷、黒薙温泉（入浴予定、黒薙駅から徒歩約20分）、宇奈月変成岩、黒部扇状地、生地湧水群他を予定しています。

問合せ先・申込先：

一般社団法人立山黒部ジオパーク協会

info@tatekuro.jp

申込用紙に記入の上、info@tatekuro.jpへ添付でお送りください。

※ジオツアー申込書：

http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/images/geotour2015_app.docx

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに7月29日送信しました）

【ジオツアー・黒部川の峡谷（黒薙温泉）と扇状地（みずはくツアー 2015）のご案内】

黒部峡谷トロッコ電車と貸切バスを用いて巡検を行います。

見学地は、黒部峡谷、黒薙温泉（入浴予定、黒薙駅から徒歩約20分）、宇奈月変成岩、黒部扇状地、生地湧水群他を予定しています。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/#geotour>

締切（8月31日）間近となりましたが、まだ参加人数に余裕がありますので、是非お申し込みください。

日時：9月27日（日）10：20 北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅 集合

17：20 北陸新幹線 黒部宇奈月温泉駅 解散

案内者：山本隆治・君島 勝（フィールドミュージアム水博物館）

参加費：10,000円（交通費・昼食代、入浴料、旅行保険を含む）

募集人数：20名

申込締切：8月31日（月）

申込・問い合わせ先：

一般社団法人立山黒部ジオパーク協会

info@tatekuro.jp

TEL 076-431-2089 / FAX482-3204

（上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月26日送信しました）

【秋季大会 暫定プログラム（学術講演会）公開】

秋季大会の暫定プログラムが出来ましたので公表します。

講演を申し込まれた方は、以下のウェブサイトから、各自の発表日時、発表形態（口頭・ポスター）をご確認ください。

尚、暫定プログラムのため、正式なプログラムは後日公開します。

A会場：

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programA.html>

B会場：

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programB.html>

ポスター：

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/programP.html>

※今回はポスター発表のコアタイムが発表毎に2回あります。

9月28日（月） 17：15-18：00

（奇数番号 P01, P03, P05～）

9月28日（月） 18：15-19：00

（奇数番号 P02, P04, P06～）

9月29日(火) 10:45-11:30

(全ポスター P1~P96)

間違い等ありましたら、学会事務局までお知らせください。

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに8月28日送信しました)

【「火山学会創立60周年記念祝賀会」事前申込のお願い】

火山学会創立60周年記念祝賀会に参加される方は下記申込フォームよりE-mailで★事前申込み★をお願いします。

当日受付も行う予定ですが、申込多数の場合はお断りさせていただく場合もあります。

ご都合によりキャンセルされる場合は、至急御連絡ください。

祝賀会の円滑な開催に、ご協力をよろしくお願い致します。

日時：9月29日(火曜日) 18時30分~20時30分

会場：富山電気ビルディング 5階大ホール

事前予約締め切り：★9月20日(日) 17時

参加費：一般 5,500円(★当日は6,000円)。

学生 3,500円(★当日は4,000円)

会場までの移動手段：市内電車(大学前-電気ビル前)

約22分200円 約7分間隔で発車

なお、新富町で下車して、会場までの約500mを歩いた方が到着は早い。

<http://www.kazan.or.jp/doc/kazan2015/index.html#party>

※火山学会創立60周年記念祝賀会・事前申込フォーム

申込先：kazan015@sci.u-toyama.ac.jp

メールの件名(タイトル名)に必ず【祝賀会申込】としてお申し込みください。

申込みフォーム：

メールの件名(タイトル名)【祝賀会申込】

本文テキスト

(1) 氏名：

(2) 所属：

(3) 連絡先メールアドレス・電話番号：

(4) 一般/学生の別：

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに9月1日送信しました)

○「火山」60巻2号 目次

「火山」60巻2号・目次をアナウンスいたします。

目次・掲載内容のほか、メーリングリスト限定、著者か

らの一言メッセージをご覧ください。

○特集：火山噴火史解明のための露頭データベース構築の検討(2)

1. 論説「浅間前掛火山山頂部と黒斑火山崩壊カルデラ壁に記録された火砕噴火による安山岩質溶結火砕丘の形成」

著者：安井真也・高橋正樹

火口近傍の堆積物の産状や地形的特徴などに基づいて噴火プロセスの実態解明を目指す「プロキシマル火山地質学」のフィールドの一つとして、浅間火山の山頂部の露頭を記載しました。観察事実から、1) 12世紀の天仁噴火における火口近傍プロセスと、2) 大規模な火砕噴火の際に形成された溶結火砕丘の多様性について考察しました。

2. 総説「日本及び世界の火山データベースの現状と展望」

著者：宝田晋治・Joel BANDIBAS・Okory PRAMBADA

日本及び世界の火山データベースの現状を取りまとめ、今後の火山データベースのあり方を議論した。国内では、日本活火山総覧第4版、日本の火山DBなど13のデータベース、世界では、スミソニアンGVPやVOGRIPA、WOVODatなど20のデータベースを取り上げている。また、今後のデータベースの形態の一つとして、G-EVER火山災害予測支援システム、アジア太平洋地域地震火山ハザード情報システムなどを示した。そして、(1) 基盤データ整備、(2) データ解析・高度利用、(3) 相互運用について、将来の火山データベースに関する議論を行った。

3. 総説「火山爆発指数(VEI)から見た噴火の規則性」

著者：中田節也

ランダムに起こっているように思われる噴火も、ちゃんとデータを見直すと噴火頻度・規模に類似のベキ乗則が見えてくる。世界のスケールだけでなく地域や個々の火山でも、そこでは、巨大噴火や超巨大噴火、いわゆるカルデラ噴火であっても、特別なマグマシステムが存在するようには見えない。また、最近の日本の火山活動の静穏さが浮き彫りになる。

4. 寄書「北海道、白滝ジオパークの黒曜石溶岩の内部構造」

著者：和田恵治・佐野恭平

白滝ジオパークの地質遺産は日本最大の規模と高品質をもつ黒曜石です。ここは緻密な黒曜石層を含む流紋岩溶岩の断面露頭が複数見られます。白滝黒曜石溶岩は、外側から中央部に向かって、緻密な黒曜石層、縞状黒曜石層、流紋岩層に変化する内部構造で

あることがわかりました。他地域の黒曜石溶岩の内部構造と比較し、黒曜石と流紋岩の岩石組織から黒曜石溶岩の形成過程についても検討しました。

5. 寄書「大雪火山、御鉢平カルデラ形成期の噴出物と噴火活動」

著者：佐藤鋭一・和田恵治

大雪火山、御鉢平カルデラ形成期に流出した2種類の火砕流堆積物について、山麓での層序が分かる模式露頭を設定し、産状および噴出物の岩石学的な特徴を示しました。また、2種類の火砕流の流出方向や堆積過程、さらに軽石のガラス組成からカルデラ形成期に複数のマグマ溜まりが存在した可能性についても議論することができました。

6. 寄書「桜島火山北斜面における武テフラの露頭記載：北岳末期の噴火推移」

著者：平嶺浩人・宮縁育夫・小林哲夫

桜島火山は北岳と南岳という2つの火山体で構成されていますが、北岳の活動は約5600年前の山頂噴火で終了したと考えられています。本研究では、北岳末期の噴出物である武テフラについて分布や産状を明らかにするとともに、そのテフラをもたらしした噴火推移について検討しました。その結果、武テフラは降下軽石堆積物と北岳の北斜面に広く分布する火砕流堆積物からなることが確認され、プリニー式噴火の最中に噴煙柱が部分崩壊して火砕流も発生したことがわかりました。

7. 寄書「火山灰噴出を主体とする火山周辺域における埋没土壌層の認定：阿蘇火山での事例」

著者：宮縁育夫

テフラ調査において活動休止期あるいは静穏期を示す埋没土壌層の認定は重要であるが、長期間にわたって小規模噴火を継続する火山周辺域では、ある地層が火山灰などのテフラ層の遠方相なのか、土壌層なのかの判定が容易でない場合がある。本論では小規模火山灰噴出を続ける火山の代表例である阿蘇火山周辺域において、埋没土壌層と考えられる地層がどのような特徴を有するのかを明らかにするため、層相の観察のほか、粒度分析・土壌硬度測定・炭素含有率測定・植物珪酸体分析を行い、どのような分析が土壌層とテフラ層の区別に有効なのかを議論した。

8. 寄書「海底堆積物中のテフラ：その認定、記載から分析・同定までの現状と課題」

著者：池原 研

日本のような火山列島周辺の海底堆積物中には多数のテフラがさまざまな産状で分布しています。これらのテフラは海底堆積物中に重要な同時面を与

えてくれるので、海洋地質学や堆積学、古環境学にとって重要ですが、火山学的な価値も高いと思われます。海底堆積物の研究者と火山の研究者の協働は海底のテフラを利用しての研究の一層の推進やテフラのデータベース作成に重要と考えます。是非、協働を進めましょう。

9. 論説「十和田火山平安噴火（噴火エピソードA）の噴出物層序及び噴火推移の再検討」

著者：広井良美・宮本 毅・田中倫久

十和田火山は青森県と秋田県の県境に位置する第四紀火山で、山頂の給源火口はカルデラ湖となっています。これまで何度もマグマ水蒸気噴火が発生しており、今後の活動においてもその発生が懸念されています。しかし、最新の活動である平安噴火ではマグマ水蒸気噴火のために多様な噴出物が形成されており、噴火層序が明らかになっていませんでした。

本論では、給源近傍から遠方まで詳細な野外調査を行い、噴出物の層相変化を追うことに主眼をおいて噴出物層序の再検討を行いました。またそれに伴い噴火推移の再検討を行った結果、平安噴火ではマグマ噴火とマグマ水蒸気噴火とを交互に繰り返した後火砕流の流出に至る、複雑な噴火推移を辿っていたことが明らかになりました。また、外来水との接触を伴うプリニー式噴火や、溢流型火砕流など、いくつかの特徴的な噴出物が確認されました。

10. 論説「降下火砕堆積物からみた浅間前掛火山の大規模噴火」

著者：安井真也

18世紀の天明噴火は古記録が例外的に多いため、堆積物の層序に細かい時間軸を入れて噴火推移が議論できます。一方、天明以前の堆積物は露頭も極端に減り、情報が乏しいですが、今回20数年間蓄積した地質データをまとめ、降下火砕堆積物を中心とした記載と、層序に基づく噴火推移の考察をしました。実態把握が難しい古い時代の堆積物の調査も継続して、将来分布図等を更新できればと思います。

11. 寄書「Multiple Vent-forming Phreatic Eruptions after AD 1663 in the Noboribetsu Geothermal Field, Kuttara Volcano, Hokkaido, Japan」(「北海道クッタラ火山登別地熱地域の水蒸気噴火：1663年以降の活動」)

著者：Yoshihiko GOTO, Yoshimasa TORIGUCHI, Hiroataka SASAKI and Akira HATAKEYAMA

北海道クッタラ火山、登別地熱地域の爆裂火口群を形成した水蒸気噴火に関する地質調査を行いました。トレンチ調査により、最も最近起きた水蒸気噴

火の詳細が明らかになりました。

登別地域の火山防災に役立つ成果だと思います。

12. 解説・紹介「第5回陥没カルデラワークショップ報告」

著者：長谷川健・下司信夫・石川敦代

陥没カルデラワークショップ (Collapse Caldera Workshop) とは、IAVCEI に設けられた小委員会の一つで、カルデラやそれを形成する巨大噴火に関する様々な現象を理解することを目的として設置された。第5回を数える今回は、地球上で最も盛んに珪長質マグマを生成し、活動的なカルデラ群を有する、ニュージーランド北島のタウポ火山帯 (TVZ) で開催された。Caldera Volcanism and Society というテーマのもと、研究集会 (会場はタウポ湖) および野外巡検 (TVZ 一帯) において活発な議論が交わされた。次回開催地は北海道の予定であり、より多くの参加者を期待したい。

13. 解説・紹介「噴火の終わり方」

著者：佐藤博明・嶋野岳人・石橋秀巳

噴火推移の予測や、火山噴出物の組織を理解するにはマグマ溜まりから火道のモデルの理解が欠かせないと考え、噴火の停止を題材に関連論文を纏めてみました。最初に噴火推移に影響するパラメーターの解説を行い、続いて三つの噴火様式 (ドーム噴火、プリニー式噴火、カルデラ噴火) について、具体的な例をあげ噴火停止の条件について述べています。参考になる部分があれば幸いです。

14. 解説・紹介「火山学勉強会 2014 の報告」

著者：田中 良・山田大志・石毛康介

火山学勉強会は有志の学生が主催する、学生のための研究集会である。

本稿では、2014年9月に北海道杜警町にて、3泊4日で行われた火山学勉強会 2014 について紹介する。本会は 25 名が参加し、研究発表、北海道大学有珠火

山観測所大島准教授による講演会、有珠山・樽前山巡検、グループディスカッションを行った。多様な研究手法が存在する火山学において、他分野の研究に触れ、議論するという事は、研究者としての素養を高める上で重要である。本会でも活発な議論が行われ、参加者同士が刺激し合える良い機会となった。

火山学勉強会 2015 は東京大学有志が中心となり、8月28日から31日に伊豆大島で行われる予定である。多くの学生が参加し、活発な議論、交流が行われることを期待したい。

15. 口絵写真解説「32周年を迎えたキラウエア火山プウ・オーオー噴火」

著者：安井真也

30年以上噴火活動が継続するハワイ島のキラウエア火山では、山頂部やリフトゾーンで様々な変化がみられます。火砕丘や溶岩原の空撮写真、2014年晩秋に溶岩流に脅かされたバホア村の写真等を紹介し、一連のプウ・オーオー噴火についてまとめました。

16. 口絵写真解説「2014年11月から始まった阿蘇火山中岳第一火口の噴火活動」

著者：横尾亮彦・宮縁育夫

2014年11月から始まった阿蘇中岳第一火口の噴火活動について、観測・調査実施時に撮影した写真を用いて紹介します。本稿をご覧いただければ、2015年4月半ばまでの噴火活動の概要、推移については、比較的容易に理解できるものと思います。

・ニュース

日本の火山活動概況 (2015年1月~3月)

その他のニュース

・日本火山学会 2015 年度秋季大会のご案内

(上記のお知らせは火山学会メーリングリストに6月25日送信しました)